



神戸長田ふくろうの杜^{もり}

「神戸長田ふくろうの杜」建設も、いよいよ10月末の完成に向けて、外装工事から内装工事へと進んでいます。それに合わせて全体を覆っていたシートも取れ、全様が見えるようになりました。淡路ふくろうの郷でおなじみの「ふくろうのシンボルマーク」は神戸事業所「神戸長田ふくろうの杜」にとってもシンボルマークとなります。地域の皆さまにも1日も早く馴染みとなることを願っています。

「神戸長田ふくろうの杜」では、12月から幾つか新規事業がスタートします。障害者の事業である、「生活介護」「放課後等デイサービス」、そして高齢者の事業として介護保険のデイサービスです。平成14年にスタートした「生きがいデイサービス」と合わせて神戸のろうあ高齢者の「居場所」として頑張っていきます。現在は開所に向け、職員配置や利用して下さる高齢者の皆さんへの呼びかけをしています。手話の通じない一般のデイサービスに通われている皆さんにも働きかけます。(眞木崇江)

**神戸長田ふくろうの杜
～開所式のお知らせ～**
日時:11月21日(土)
午前10時～11時
場所:神戸長田ふくろうの杜
※詳細については、改めて
ご案内させていただきます

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

神戸長田ふくろうの杜の募金運動も9回目、1億円まであと1時千万円に。この達成に推進委員会ではフルート募金を呼びかけています。「個人でも家族やグループでも5万円以上のご寄付の方々の銘飯が「ふくろうの杜食堂」に掲示されます。あなたも是非。

ふくろう敬老会～ご長寿に涙のお祝い～



▲男女最高齢の真嶋勝さんと後しめのさん



▲米寿の岸野さん、北宿さん、岡田さん

9月20日ふくろうの郷敬老会が行われました。今年も新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、ご家族への案内はできませんでした。昼食は松花堂弁当で皆さんおいしそうに食べておられました。3月から外出もままな日でした。制限のある暮らしの中で施かなあ」という入居者の思いを設内でも楽しんでいただけ聞き、敬老会担当も何か笑顔を届けたいと考え出し物をする事にしました。(生活支援係 中村久香)

本番は緊張から周りを見る余裕がなく、入居者さんが楽しんでくれたのか、笑ってくれたのかわかりませんが、自分の出番が終わるとふれあい座の劇や歌を自分も一緒に楽しむことができました。記念品贈呈の時、舞台上で涙ぐむ入居者さんも居られ節目のお祝いをするこの大切さ、入居者一人一人に寄り添うことの大切さを改めて感じました。

ふくろう物語
あばみちよ
英保 道代 様

夫婦二人三脚で

英保さんは2歳の時に父親が戦死され母親と2人で暮らしていました。

母親が仕事で忙しく、送迎ができなかったので小学校の登下校は毎朝、近所に住む友人宅へ行き、友人と

- ・昭和16年 神戸市住吉生まれ(現在79歳)
- ・昭和25年頃 神戸ろう学校小学部入学
- ・昭和30年代 洋裁を学び、服飾関連の仕事に就いていた時期もあった。
- ・結婚後 姫路市でご主人の実家の家業であるお菓子会社に夫婦で勤務
- ・平成30年 淡路ふくろうの郷入居



▲定期的に来訪してくださるご主人と

知り合ったご主人と結婚され、姫路市に住むようになりました。2人とも旅行が好きで、ろうあ協会主催の旅行にはいつも夫婦で参加されていました。

普段は、自転車の2人乗りで買い物に行ったりされてきました。ご主人の実家で義母と3人で暮らしていました。

そして、義母が亡くなったときに、認知症が発現しました。

ご主人だけでは道代様の介護が難しくなり、平成30年11月にふくろうの郷へ入居され、丸2年になりました。

入居当初は、食事の一部



▲入居当日、ふくろうの郷へ出発

介助でしたが、認知症が進み現在は全介助での食事になっています。

昼間は、リビングで傾眠されることもありすが、いつも穏やかに頬を手でさすりニコニコして過ごされています。また、毎日の朝の会や各行事にはいつも参加され場の雰囲気や和ませてくれています。

今後、ご主人やご友人と会える機会を通じて、笑顔や絶やすことのないようにお手伝いしたいと思いません。

(生活援助係 國久洋志)



▲ずっと仲よし同郷の梅田さん(左)

ふくろう大学 工房
作品紹介



ちぎり絵 ふくろう
安藝正枝さん



書道講座 『秋桜』
夜久保子さん



料理講座 押し寿司
北風章子さん

新型コロナウイルス研修会に参加して

兵庫県看護協会主催の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)研修会(9月28日)に参加してきました。感染管理認定看護師であり、実際に新型コロナウイルスの患者と向き合っているお話でした。

わかってきた事として、発症2〜3日前から感染性があること、発症0.7日前が最も感染性が高い、48〜62%が無症状感染者から、発症6日以降での感染は見られないようです。

施設・事業所はクラスター(集団発生)が起こりやすく、防護具や距離を取るといふ方策が行えない(認知症の方などは理解が得られないこともある)、利用者が抵抗力のない集団のため罹ると長期化・重症化の可能性がある、職員が濃厚接触者となる

と就業制限がかかり業務に

支障が出てしまいます。症状については発熱の2・3日後に一旦解熱が見られても4・5日後に再度高熱が見られ、CT検査で肺炎を確認されることが多いと言われています。偽陰性により、その後、施設や事業所でクラスターが起きやすいとのこと。大切なことは手洗い・うがい必須、人と接するときにはマスクを装着、マスク・鼻・髪の毛をむやみに触らないよう自己管理の徹底と体調不良なら出勤前に連絡して相談し、管理者の指示に従いましょう。

(健康看護係 野田八重子)

法人職員手話学習会に参加して コミュニケーションを深めよう!

今年度はコロナウィルスの影響で奉仕員養成講座の開催が5回のみとなり申し込みされていた新人職員より、「手話の学習がしたい。」との強い希望があり第2、4火曜日にふくろうの郷で手話学習会を開催しています。介護現場で必要な手話表現や、入居者との会話で困った手話表現を聞きながら、参加者同士で考えてもらいながら学習を進めています。

ふくろうの郷へ就職した職員は手話が出来ないとの不安を抱えていたり、又、ふくろうの郷への就職を希望する方は「手話が出来なければ無理ですよ?」と話されることもあるので、入職者が持つ「手話」に対しての不安感を取り除き、安心して仕事に就けるようにすることも、手話学習会の大切な役割であると感じています。

来年2月には手話検定に挑戦します。みんなで合格目指して頑張っています。

(淡路ふくろうの郷手話学習会担当 鈴川 晃司)



手話を学ぶことが出来る環境があり、助かっています。教えてもらった手話でコミュニケーションを取りながら頑張りたいと意気込む職員

コロナ禍続いています 毎月、手話講座で笑顔をお届けしています



入居者の皆さんに、手話や身振りを違和感なく楽しんでいただくためには、どうすればいいかを考え、歌に手話を付けてリズムを取りながら、「身体で歌う」という取り組みを行っています。

担当職員は、(聞こえる・聞こえないに関係なく)みんなと一緒に楽しめるよう、盛り上げ方も工夫を凝らしながら、相談して進めています。

手話を初めて知った方からは、どうしてこのような表現になるのか?という質問をいただくこともあり、語源等も交えて説明しています。

終わりが来ると、「また来たい。」「次はいつ?」と笑顔で尋ねに来られる方もいらっしゃいます。コロナ禍で地域の方々を交えての手話講座を開催できないのは大変残念ですが、これからも入居者とふくろうの郷で手話の花を咲かせていきたいと思っています。

(生活援助員 石黒 裕規)

淡路聴覚障害者

センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

第5回社会生活教室

コロナについて学ぼう

コロナについてもっと知りたいとの要望に応え、今回も手話サークルあわじ会員で洲本実業高校講師として働いておられる和田道宏先生にお話をいただきました。

まずコロナウイルスの感染者数の推移、環境や季節の違いによる発生状況の違いについて説明がありました。またコロナウイルスが発見されたのはせいぜい100年前のことで、それまでは原因不明の疫病として神仏に祈るしかなかった時代を経るなど、人類はコロナとの



毎日毎日コロナばかりで怖いな～
人生で初めての経験や！
自粛、自粛でしんどいなあ。
いつまで続くんやろ？
どう生活したらいいか学びたい！

闘いの歴史を歩んできたこと、これからもコロナと共存する方法を模索していかなければならないことなど分かりやすくお話をいただきました。

また報道でよく目にするロックダウンやクラスター等の用語の説明や、授業や仕事などのオンライン化など今までは違った生活様式が必要となるなど幅広い内容について、理解しやすいようにと板書しながらのお話でした。

参加者はコロナについては関心も高く、今までテレビの報道や新聞の記事を見ても言葉の意味が分からなかったが、だいぶ理解できて来た、と頷きながら聞いていました。

予定時間を超えてお話くださり、参加者からはコロナや健康のことをもっと学びたいとの感想がありました。

全5回の「ミニ手話教室」に34名参加

コロナの影響で奉仕員養成講座が中止となり、少しでも手話に触れていただこうと、ミニ手話教室を4会場で開催し、34名が参加しました。

「奉仕員養成講座が中止になりあきらめていたのですが、ミニ講座を開いてくださり、手話の入り口に立てたようで、嬉しいです。」

「手話は難しいというイメージがありました、少しでも手話を学ぶことができるとても楽しかったです」

「ろう者についての歴史的な背景や差別の話が興味深かったです」「今まで差別などに無頓着で関心がなかったと気づかされました」



そして、参加された方は、一様に今後機会があれば是非学びを続けたいとの感想をいただきました。

淡路市では、市合併前に旧津名町地域のみ聴覚障害者対象に防災行政無線受信機設置がありました。来年春季から機器を改善し、全地域での聴覚障害者向けに防災行政無線・文字付受信機が設置されることになり、設置希望者に、8月26、28日に3か所で説明会が開催されました。危機管理課消防防災課の職員さんが分かりやすく丁寧に説明してくれましたが、高齢者にとっては、文字は読

淡路市全域で防災行政無線・文字付受信機設置へ



消防防災課の職員の説明を聞く参加者

みづらい、絵文字や手話を付けたら良いのではないかと意見を述べる参加者もありました。



地域と共に

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター



兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
 ☎656-0002
 TEL 0799-28-0990
 FAX 0799-28-0992



井戸知事の挨拶

10月2日(金)兵庫県公館に於いてひょうごユニバーサル社会づくり賞の贈呈式があり、ふれあいセンターの取り組みがひょうご推進会議会長賞(団体部門)に選ばれ、井戸知事より賞状(左)が授与されました。

平成24年7月中川原地域と法人協働で中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターはスタートし、今年で8年が経過しました。

その間おのころの家移転、ディスプレイ桜ヶ丘開所、地域活性化の一助としてわくわくフリーマーケットを計画、開

催など様々なことを地域住民とともに考え実施してきました。

特におのころの家が中川原に移転し、地域の支え合い活動である「おたがいさま中川原」活動を通じておのころの家

利用者とは地域住民が障害の有無を超えた交流をすすめていることが今回の受賞契機になったと思います。

コロナ禍により、ますます人と人とのつながりが希薄となつていく時期ではあります

が、この賞を励みに中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターはもう一度人と「つながる」「ふれあう」ことの大切さに振り返り活動を進めていきたいと思ひます

(中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター 濱田)



兵庫県公館建物

新型コロナウイルス感染防止を続けながら毎日楽しく仕事しています



▲地域での草刈り作業

おのころの家農業班の皆さん、タマネギの根切り・出荷作業は、暑い中、扇風機をかけ、打ち水をしながら頑張つて無事終了しました。今年度の出荷タマネギの総収益は約580万円であり、終了時、利用者には達成感が顔に出ていました。そしてその余韻もまだ残る中、天候を見ながら椿製品加工用の椿の実採集や地域支援・環境整備として草刈り作業を行っています。それと並行して来年度収穫の玉ねぎの畑作り、肥料撒き、種撒きを行なっております。まだまだ暑い中、農業班は毎日汗を流しながら作業に取り組んでおります。

(支援員 中島・矢田)



▲塩のゴミ取り作業

室内班の皆さん、コロナ禍の感染が心配で休む利用者もいますが、ほとんどの人は毎日、元気で通所し、仕事はしています。毎朝に加え、午後の作業前にも検温をすることにしました。手指の消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンスを守りながら、それぞれの仕事に精出しています。塩作業も途切れることなく、マスクの注文もまだまだあり、忙しくしています。イベント関係が再開され、また元気でお会いできる事を期待しています。

(支援員 藤本)



〒652-0897

TEL & FAX .. 078-575-0755

兵庫県神戸市兵庫区駅南通5-4西高架下16

共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デイサービスセンター

神戸事業所

新たな聴覚障害者のくらしを支える拠点が誕生します!!

神戸長田ふくろうの杜の完成が迫りました。新施設での仕事に期待が高まる中、新たな展開として、障害者グループホームの運営準備が進んでいます。名称は「神戸平野ふくろうの樹」です。来年6月開所を目指しています。

高齢聴覚障害者は淡路ふくろうの郷という拠点がありませんでした。

この施設は、オーナーの郡勝平様が建物を建設し、賃貸契約により、当法人が運営します。

入居対象は、65歳までの聴覚障害者ですが、65歳までに障害サービスを利用している方は、65歳以上でも入居ができます。

地域でご希望の方がいましたら、お問い合わせください。

神戸事業所 竹原 哲章

障害者グループホーム「神戸平野ふくろうの樹」

【施設概要】

- ・場所：神戸市兵庫区石井町
- ・定員：10名
- ・光熱水費・食費（朝・夕）：25,000円
- ・家賃：25,000円（設定金額は50,000円ですが、補足給付、家賃補助があるため）

○入居者の募集

- ・10月中旬から申込受付を開始
- ・来年2月～3月頃入居者決定

○職員の募集

世話人：利用者の食事の準備、生活の支援等
勤務時間（予定）：16:00～9:00（仮眠あり）

※神戸平野ふくろうの樹についてのお問い合わせ

相談支援事業所ふくろう 竹原哲章 TEL 090-6238-7617 FAX078-779-8691

メール Soudan.fukurou@gmail.com

10月・11月ふくろうの暮らし

- 10/16(金) 書道講座
- 10/20(火) おのころパン販売
- 10/21(水) 喫茶
- 10/25(日) ふくろうまつり
- 10/30(金) 回想法
- 11/ 3(火) 誕生会・演劇講座
- 11/ 6(金) おのころパン販売
- 11/ 9(月) ふくろう理髪店

神戸施設建設募金
目標 1億円!!

88,607,890円

プレート 280枚

残り 11,392,110円

令和2年10月1日現在